介護新聞アソートメント

室温下げずに換気

新型コロナ感染防止対策に「グッドマン換気口」

日浦

建築資材と介護リフォーム用品販売等を手掛ける日浦（本社・札幌市白石区）は介護施設や病院の新型コロナウイルス感染防止に、グッドマンの室温を下げない換気口導入を提案している。

グッドマンの開発した同製品は換気口内に排気と給気経路を設け、温度差と通風で空気を移動させて換気。室内側に設置する換気口ダンパーの角度によって外気量を調節し、室内の温かな空気と混じり合うことで冷気が緩和される。

その仕組みを約20年前に開発したグッドマンの斎藤武夫社長は「電気等動力を使わずに建物全体の風通しを良くすることで結露、かび、においを防ぐ」と説明。環境への負荷、コスト軽減などが評価され、2016年札幌商工会議所認定「北のブランド」金賞、17年度北海道発明協会会長賞を受賞した。

室温変化が少なく、防臭効果の高い換気口として老健、有料老人ホーム、病院などで導入が広がる中、「今は新型コロナ対策で注目され、売り上げが伸びている」と販売元の日浦明典社長。同市中央区に開設した「グッドマン換気口ショールーム」では、換気口による建物内の空気の流れを実際に確認できる（要事前予約）。

換気口を開発したグッドマンの斎藤社長（左）と販売元の日浦社長

組立式簡易ゲート「Neorika Gate」

サンクレエ

全身除菌で感染対策

サンクレエ（本社・札幌市中央区）は介護施設の感染対策として、除菌液を噴霧し通り抜けるだけで全身を除菌できる組立式簡易ゲート「Neorika Gate」の販売を開始した。

……さまざまなスペース設置可能

同製品はフレームがアルミ製でLED照明がつく。周囲、天井部分はアルミ複合材。フロアマットを敷くと靴裏も除菌できる。

噴霧する除菌液は次亜塩素酸ナトリウムを改良した安定型次亜塩素酸ナトリウム「Neorika」。ウイルス・細菌類除菌率99・9％で、除菌に要する時間は15～60秒。消臭、防かびなどさまざまな用途に使用できる。肌に触れたり、目や口に入っても問題ない安全性を備えており、多くの介護施設、病院等で導入されている。

寸法は幅830ミリメートル、奥行き970ミリメートル、高さ2000ミリメートルを基本とし、追加料金で幅と奥行きをサイズアップ可能。簡単に組み立てられ、さまざまなスペースに設置でき、主電源ボタン1つで稼働する。

オープン価格。1年間の無償保証。問い合わせは日浦☎011（611）6364。

価格は1万5800円から（工事費別途）。問い合わせは日浦☎011（864）0177。

クローズアップ

ＰＴの福祉用具専門相談員 ――札幌市清田区

身体評価交え専門性生かし提案

福祉用具選定には利用者の身体状態や生活環境に応じ、医療的視点から専門的アドバイスを求められる場面も少なくない。医療法人社団鈴木内科医院（札幌市清田区）福祉用具貸与・販売事業所は、理学療法士が福祉用具専門相談員を務め、身体評価等を交え活用方法を提案している。

通所リハなど併設する鈴木内科医院に事務所を構える

同法人は1980年に同区内で診療所を開業。約40年間、医療だけでなく通所リハや訪問リハ、認知症グループホームなども展開し医療・介護一体で、地域高齢者の在宅で地域を支えてきた。

福祉用具貸与・販売事業所は2020年11月にオープン。管理者の金浜敦司相談員は通所リハを兼務する現場経験4年目のＰＴ。若手も新規事業に挑戦できる明るい風土で、「一貸与・販売から開設手続きなどを調べ、他事業所に尋ねたりして準備を進めてきました」。

事業を立ち上げたのは、通所リハで利用者の生活状況を把握し課題を見つけていく中で、地域高齢者の在宅生活継続をより一層支援していくために「福祉用具の視点からもアプローチできるのが理想」と考えたからだ。

金浜氏とともに健康運動指導士で介護福祉士の職員が相談員を務めるほか、法人内作業療法士ら多職種と意見を交わしながら運営。

利用者が福祉用具を使用した際にＰＴ視点で身体評価し、本人や家族にケアマネにフィードバックできるのが特徴。

管理者を務めるＰＴの金浜相談員

例えば、「シャワーチェアなど立ち上がり動作の観点からも利用者やケアマネからよく聞くのは「道具に頼っていると筋力が弱くなる」という不安。極端な使い方でなければ筋力低下の心配はなく、「導入することで動きが増える方がメリット」と強調し、けが予防の活用を勧めている。

福祉用具について、「積極的にケアマネから提案していくような相談員の在り方を目指している」と話す。

アドバイスを強みに、動の取り入れ方」などラムの中に取り入れて活用方法を紹介。「保険適用を知らない利用者も多く、地域に向けて情報発信していきたい」と力を込める。

現在、通所リハ内で福祉用具をリハプログ

医療情報ダイジェスト（姉妹紙・北海道医療新聞紙面から）

◎道内診療所20年新規開業、過去最少46件

2020年１～12月に道内で新規開業した診療所（新規保険指定から承継・移転を除く）は19年より13件減の46件で、過去最少だった15年の55件を９件下回った。うち３件は「地域外来・検査センター」のため、純然たる診療所は43件。新規開業件数は漸減傾向ではあったものの、新型コロナウイルス感染症流行が医療機関の経営状況や診療体制に影響を及ぼす中、急ブレーキがかかった格好だ。

３次医療圏別では釧路・根室で開業がなく、全６圏域での開業が５年ぶりに途切れた。道央が67％（31件）、うち札幌市は28件と依然として全件数の約６割を占める。他は十勝が６件、道南が５件、オホーツク３件、道北１件。

◎道立旭川子ども総合療育センターにリニューアルオープン

道は、道東・道北地域における障害児の地域支援や療育機能を強化するため、旭川市の道立旭川肢体不自由児総合療育センターの全面改築を終え、「道立旭川子ども総合療育センター」に改称してリニューアルオープンした。旧センター北東側グラウンドにＲＣ造２階建て延べ約5900平方㍍で建設。診療科目は小児科、整形外科、歯科、眼科、泌尿器科、麻酔科。病床数（入所定員）は一般入院45床（15床減）、親子入院15床（５床減）の計60床体制にダウンサイジングし、児童１人当たり床面積を広げた。

◎帯広第一病院、クラウドファンディングで無料低額診療費用調達

帯広市内で帯広第一病院などを運営する公益財団法人北海道医療団は、無料低額診療への支援を目的にクラウドファンディングによる寄付を募集したところ、目標金額1000万円に対し960万8000円の支援を受けた。同法人は従来から無料低額診療を行っており、2019年度は無料低額診療事業で外来88人、入院57人の計145人、無料低額老健利用事業は入所者３人の実績で、法人負担は約2000万円となっている。20年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり2500万円に膨れ上がることが予想される一方で、法人各施設はコロナ拡大で４～５月の業績が落ち込み、十分な予算の確保が課題となっていた。

◎柏葉脳神経外科病院、面会にオンライン診療システム活用

札幌市豊平区の柏葉脳神経外科病院は、入院患者との面会にオンライン診療システムを活用している。登録や調整業務が省略できるため、スタッフ負担軽減につながっている。新型コロナウイルス感染拡大に伴い面会禁止措置を継続する中、スタッフや患者からオンラインによる面会を望む声があり導入を検討。手間がかからず、運用実績のあるオンライン診療システムを使うことにした。家族がシステムメーカーのホームページからオンライン診療アプリをダウンロードしメールアドレスを登録するだけ。面会予約画面が表示され、利用方法などもサポートされる。

◎市立釧路病院が新棟基本計画、28年度中の完工目指す

市立釧路総合病院は新棟建設等基本計画（改訂版）を取りまとめた。地域で高まっている高度医療ニーズや医療環境の変化等に対応するため、2025年度中に新棟建設、既存棟改修に着手し、28年度中の完工を目指す。総病床数は108床減らし535床を想定。可能な限り病棟を集約し、一般病棟の１看護単位の病床数は36～48床で整備することで看護配置を適正化。将来ニーズ・病棟運用の可変性を考慮し、一般病棟病室の規格を標準化することで、各病棟で可能な範囲で患者を選択しないベッドコントロールを行えるようにし、病床稼働率向上を目指す。

●道内唯一の医学・医療・医政専門紙
週刊 北海道医療新聞
■毎週・金曜日発行
■年間購読料／20,000円＋税
情報提供や購読申し込みは
▷TEL　011（221）7777
▷FAX　011（281）2678
▷Email　info@medim.co.jp